

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2017年12月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp



随法寺
子ども報恩講
お斎の様子



乗得寺
子ども報恩講
お斎の様子



蓮ちゃん通信 その①

絵本100冊プレゼント 募集中!!

お寺での青少年教化で絵本を活用してみませんか?詳しくは、10月末の寺院・教会定期直送便同封の応募チラシをご覧ください。



〔2017年12月20日(水) 応募締切〕

2018年4月18日(水)~19日(木)

「ひとりからはじめる 子ども会」講習会



東北開催

参加いただく方のお寺の状況をスタッフが共に考え、子ども会の実践について、体験していただきながら学ぶ講習会を東北別院・仙台教務所で開催します。「お寺で子ども会をはじめたい!」そんな皆様のご参加、ぜひお待ちしております!!

〈定員〉20名/3月20日(水) 応募締切

〈会場〉東北別院・仙台教務所

※詳しくは、「真宗」誌2月号をご覧ください。

問い合わせ TEL.075-354-3440 (青少年センター)

子どもは大人より劣っている?

かわやぎ あゆみ

青少年スタッフ 櫻 歩

人間は、大別すると大人と子どもに分けられます。子どもというのは大人になる前の段階のことを言うのでしょうか。私はずっとそんな風に思っていました。

一生を細かく分ければキリがありませんが、親などの手助けがないと生活できない乳幼児。青年期では、自立ということ意識しながら一人で生活できるようになっていきます。また、物事を自分で判断し責任ある立場に身を置かれる壮年期。そして最後には、あれもこれも出来なくなったと言いながら老年期を迎えていく。人生をグラフで表すと山なりのイメージでした。

しかし、子どもたちと接しながら感じたことは、ひょっとしたら人間は何歳であろうが完成されているのではないかということでした。子どもは大人より劣っているのではなく、例えば9歳なら9歳を精いっぱい生きている完成形。

生活の中で子どもに驚かされ、教えられることは、私が子どもより優^{まさ}っているという傲慢さを持っているということなのかもしれません。

人間は偉いものではない、 尊いものです。

奥羽教区

桂川 正見



近所のお友だちとお寺の境内で遊んでいた時のことでした。あみちゃんという当時小学四年生のお友だちが、お寺の掲示板の言葉を見て、「こんなふうに聞いてきました。「じゃあ、校長先生は偉くないの?!内閣総理大臣は偉くないの?!」って。その月の掲示板には「人間は偉いものではない、尊いものです。」というお言葉を貼っていました。それを見たあみちゃんの大事な問いかけだったので、僕は返答に困ってしまっ「フーン…」と頭をかかえてしまったことを覚えています。校長先生とか内閣総理大臣は、みんなから選ばれて一応は一番上という立場を与えられた人だと思っから、あみちゃんはずっと学校や国それぞれにおいて、さまざまな立場にある人と人を比べた上で「じゃあ、偉くないの?」って問いかけてきたのかなと思っていました。

僕は小学生や中学生の頃、よく学校やお家で「人の役に立つ人になりなさい」と言われていました。そう言われるのが嫌でよく反発も繰り返していたけれども、心の中では「人の役に立つことは周りの人からほめてもらうことで偉いことなんだ」と思っていました。人の役に立つことについて、よくよく考えてみないといけないとは思っただけ、ここで考えたいのが「人の役に立つことは偉い」という考えが同時にどっさり考えを生み出してくるかということなのです。

僕自身のことをふり返ってみれば、人の役に立つことは偉いという考えの裏側に、人の役に立たない人は偉くない、ダメな人だという考えを同時に持っていたように思います。そして、僕がとてもやっかいだなと思っのが人の役に立つこと、立ちたいと考えることが、世の中では悪いことではないとされているところ。むしろ、人の役に立つということは善い心がけで良い考えだと世の中で思われていることで、周りの人を役に立つ人、立たない人と分別している自分の傲慢さに私たちは、なかなか気が付かないのではと思っています。

掲示板の言葉に戻ります。このお言葉

子どもたちと聞く法話

から、役に立つから偉いとか役に立たないから偉くないという人間関係とは違うあらたな人間関係が開かれることが願われているように感じます。それは「お互い尊敬し合う関係」と言ってもいいと思っただけ、比べるということから自由になれない僕には、自分のことや相手のことを無条件で尊敬することはとても難しいことだし、好き嫌いもあるから自分が嫌いな人を尊敬するということとはなかなかできないです。

ここで少し仏さまの教えに耳をかたむけてみます。阿弥陀さまはどんな仏さまかというところ、「南無阿弥陀仏」の声、いつのときも、どんなところにも、どんな人にも聞こえることを誓っている仏さまです。そして、「南無阿弥陀仏」と阿弥陀さまのお名前を聞く人は、色んな仏さまから友だちと呼ばれる存在だと教えられています。自分のふだんの生活態度がよいから、心がけがよいから仏さまの友だちになるのではなく、「南無阿弥陀仏」とお名前を聞く人を色んな仏さまが友だちと呼んで大切におもい、敬っられるということなのです。

そのことから、今ここにいる僕たちの関係に二つあることが分かります。一つは僕とあなたで直接結ばれている関係。これは好きや嫌い、どちらかの都合で結ばれたりも切れたりもする関係です。もう一つは、仏さまの友だち同士という関係です。こちらは僕とあなた、それぞれ

が仏さまの方から友だちと呼ばれている関係だから、僕の都合やあなたの都合でその関係を勝手に切ることはできません。相手を尊敬する、大事におもっということもこの仏さまを通した関係から考えてみてはどうだろうか。今日をみんなに伝えたくっただけです。それではいっしょにお念仏を申して終わりたいと思います。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

蓮ちゃん通信 その②

2018年3月3日(土)~4日(日)

雪に愉しむ池の平 with 子ども報恩講!

池の平青少幼年センターで勤まる子ども報恩講にお参りすると共に、手づくりのゲレンデを滑る“すのこぞり”や、アルペンスキーも楽しめます。ぜひお誘いあわせご参加ください。

詳しくは、高田教務所内「池の平青少幼年センター係」☎025-524-3913 までお問合せください。

池の平青少幼年センター

検索



夜の境内の雰囲気づくりに

ひとりからはじめる
イベントレシピ



リサイクル キャンドル

残ったろうそくで参道の足元を
キラキラ演出してみよう!

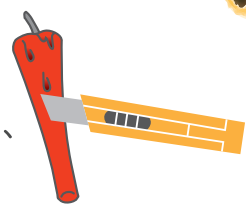


用意
するもの

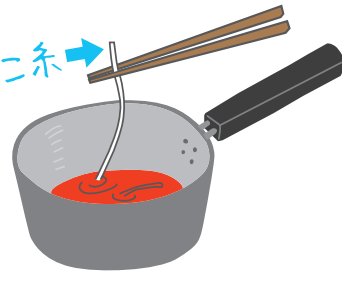
- ④ 残ったろうそく
- ④ カッター
- ④ カセットコンロ
- ④ たこ糸
- ④ 鍋
- ④ ヘラ
- ④ おたま
- ④ 割りばし
- ④ 容器 (ビン・紙コップ・シリコン容器など)

1 ろうそくの汚れた部分を
カッターで削り落としたあと、
鍋に入れて火をつけます。

ろうそくが溶け出したらヘラなどで混ぜ、
芯のかたまりをとり除きます。



2 芯をつくります。
たこ糸を芯にしたい
長さで切り、
溶けたろうにつけ、
染み込ませます。

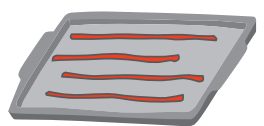


4 溶けたろうを
容器に入れます。

やけどに
注意!



3 ろうを染み込ませた
たこ糸を取り出し
伸ばして乾かします。



5 熱いうちに(3)の
たこ糸を中央に立て、
割りばしではさんで
固定します。



ワンポイント
アドバイス

「和ろうそく」は、透明感が
ないので赤や白のままです。

「洋ろうそく」は、溶かす時(1)に
好きな色のクレヨン
削って混ぜると
カラフルなキャンドルが
できますよ!



6 冷えて乾けば完成!!

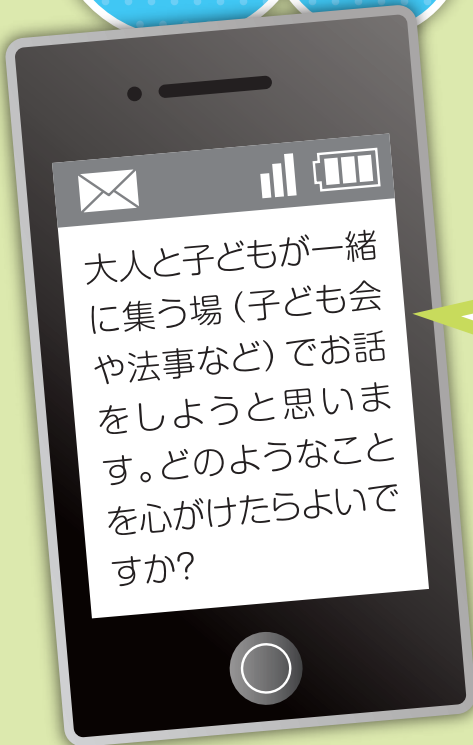


たくさんならべて
楽しい夜のつどいや
除夜の鐘つきなどに!

Re:

サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



大人と子どもが一緒に集う場(子ども会や法事など)でお話をしようと思います。どのようなことを心がけたらよいですか?

さがえ なつみ 佐賀枝 夏文

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少年センター研究員。カウンセラーネーム「サガエさん」です。東本願寺出版より「すべてが君の足あとだからー人生の道案内ー」発売中。



ご自分の「こころ」に語りかけましょう

お尋ねの事柄は、聞き手の対象が大人と子どもが一堂に集う場面では、「だれに」「どのように」「なにを」伝えたいのでしょうかという問いのようです。だとすると、回答者は「だれに向かって」「どのような内容で」「なにを伝えたいのか」について、応えるべきかもしれません。このこともないがしろにできませんが、ご法話であれ、子ども会での語りかけであっても、まずは、ご自分の「こころ」に語りかけてはいかがでしょうか。語りかけた言葉のひとつひとつが、ご自分の「こころ」におさまることを心がけるといいとおもいます。あなたの「こころ」と聞き手が対話するようにお話をされたいとおもいます。

お寺で聞く言葉は、他所で聞くような「説明」「伝達」ではありません。こころに語りかけられたことを聞き手が「こころ」で受け止めて、対話できればいいとおもいます。このことは、難しく考えないでください。まずは、ご自分の慣れた言葉で、よく理解した内容を「ゆっくり」、そして「明瞭なことば」で話されるといいとおもいます。お話が伝わっているかというモニター(点検)は、「声がうわすつていないこと」「気持ちが落ち着いていること」がチェック項目かもしれません。

子ども会の悩みや困りごとをお寄せください!

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

蓮ちゃん通信 その③

新教材 「ほとけの子風船」 好評頒布中!!

青少年センターが提案する法務の場での「ひと工夫」

僧侶と子どもとの縁づくりの「おみやげ」として「ほとけの子風船」を作りました。リーフレット「ほとけの子」修正会やキャラクターシール(無償)とあわせて配布いただけます。風船には「ほとけの子」という文字。「ほとけの子ってなあに?」、そんな子どもの疑問符から仏縁がひろがることを願いながら…。

【価格】800円(1袋50個入り)

お問い合わせ・お求めは、青少年センターまで。



配布例



◎「火」の恐しい季節になりました。たき火、火鉢、ストーブ…お寺ではよく見られる光景です。「火」の怖さ、有り難さを伝えるいい機会だと思います。子ども達と「火」を囲み、温もりを感じながらの語り、想像しただけで暖かな気持ちになります。(編集長 池崎方子)

◎「本当に風邪をひいた人が風邪をうつせるのです」という宮戸道雄先生の言葉に最近出ました。「ひとりから」という言葉から僧侶がまず聞かねばならないのは、自らの他力信心の確立、このこと一つにつきるのだとあらためて教えられました。そして、風邪をひく、すなわち如来から約束された信において、子どもも大人も同じ大地に転がっている、そんなことを思います。(青七主幹 松田世)

編集後記



真宗大谷派の青少年教化の情報をお届けします。

<https://www.facebook.com/oyc.hitorikara/>

※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

青少年センターホームページ

東本願寺 青少年センター

検索

ぜひ、ご覧ください!!